

最新地質図発表会 —9月12日東京・科学技術館で開催—

酒井 彰¹⁾

2001年9月12日, 産総研になって初めての最新地質図発表会が行われました。これまでの経過と当日の会場の様子などをご紹介します。

経過

最新地質図発表会は1994年に最初に開催されました。きっかけは, 地質図幅の研究グループのテーマ終了の成果報告会に代えて, 玄関ロビーを開催場所にしてポスターセッション形式での発表会を持つというものでした。昼休みにコアタイムを設けて, 他分野の研究者や事務系職員への地質図の普及も兼ねることを意図した取り組みでした。1995年から1998年までは地質調査所の所内研究発表会として, 海洋地質図, 重力図, 空中磁気図や活断層ストリップマップなど, 地質調査所の研究成果として地質図類を出版している他の研究グループの成果も一緒に発表する場に発展し継続しました。1999年からは開催日を工業技術院の全国統一公開日に併せました。そして, 今年は産総研の複数ユニット共催の講演会として位置づけられ, 場所も初めて都内に移して開催しました。今回の開催は通算で8回目になります。

今回の取り組み

これまでの開催と今回との大きな違いは, 所内研究発表会から地質分野の5ユニット共同で地質調査総合センターの発表会として位置づけられ, 実行委員会形式での開催になったこと, 成果普及部門の予算がつき, ポスター・パンフレットの作成, ダイレクトメールの発送, 会場費, 資料輸送費, 解説者の出張旅費が確保されたことでした。ポスターは研究者の手作りではなく, 地質調査情報部の河村幸男氏の制作によるものです(第1図)。



第1図 最新地質図発表会のポスター。

宣伝は学協会のニュース欄, 全国地質調査業協会と建設コンサルタント業協会の在関東の会員や関東甲信越の大学・博物館・官公庁・地質調査所OBなどにダイレクトメールで行いました。

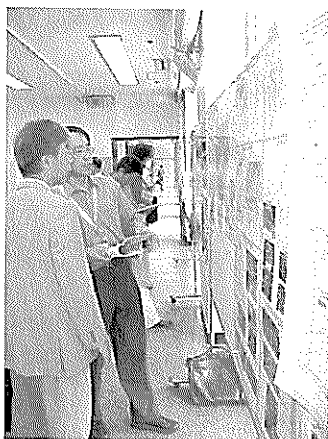
出展地質図の内容

今回は, 産総研になって初めての発表会であるとともに, 内容的には地質調査所最期の出版物の発表会でもありました。地質調査所名での最期の出版物であったためか, これまでの発表会のうちで出展件数が一番多い発表会となりました。出展された地質図類は以下の29件です。

20万分の1地質図幅「水戸」, 5万分の1地質図幅「龍野」「竹生島」「北小松」「桜井」「大阪東北部」

1) 産総研 前地球科学情報研究部門, 現 地質調査情報部

キーワード: 最新地質図発表会, 地質調査総合センター, 地質図類



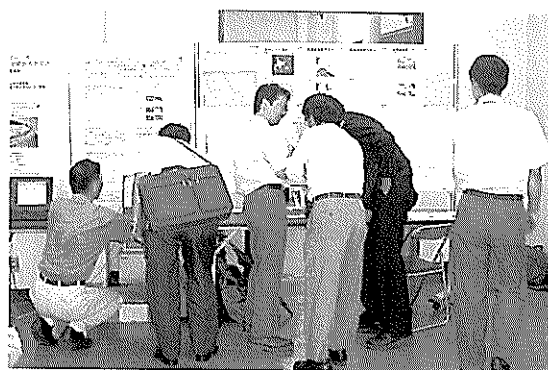
第2図 展示を前にした解説風景。

「温泉津及び江津」「三津」「飯山」「浦郷」「伊平屋島及び伊是名島」、海洋地質図「ゲンタツ瀬層堆積図」「日向灘表層堆積図」「塩屋崎沖海底地質図」「響灘表層堆積図」、重力基本図20万分の1「天北地域重力図」「名寄地域重力図」「大分地域重力図」、特殊地質図「青森地熱資源図」「札幌地熱資源図」「札幌-岩内地域マグマ-鉍化熱水系分布図」、「GEOSCIENTIFIC MAP OF SOUTHERN PART OF KOREA, WESTERN PART OF JAPAN AND THEIR ADJOINING SEAS (A3シート)」, 「花折断層ストリップマップ」、火山地質図「霧島」、数値地質図「東・東南アジア都市域の地球科学情報CD-ROM版」「北海道地質ガイドマップ(CD-ROM版)」「日本の新生代火山岩の分布と産状(CD-ROM版)」「日本周辺海域音波探査データベース(CD-ROM版)」「日本地質図索引図(第1集~第8集CD-ROM版)(1963~1999)」。

開催当日

9月12日は、9時に科学技術館に集合し、案内板の設置・会場設営などを1時間で完了し、10時に開始しました。ポスター形式で1件180cm幅のスペースを使っての展示で、説明者19名・実行委員6名が参加しました。また、地学情報サービス(株)が販売を行いました。

5万分の1地質図幅のコーナーでは、周辺の既刊の地質図幅と張り合わせての展示が多くスペースをいっぱい活用していました。また自分の家は



第3図 CD-ROM版のデモンストレーション。

この断層の近くにあるが大丈夫かななどの質問や、最初は説明を聞いていて次第に質問から討論へと熱気のコもった光景があちこちの展示で見られました(第2図)。また、数値地質図類や索引図などはコンピュータを使ったデモンストレーションを行ったので(第3図)、すぐさま購入する入場者もおられ、地質図類を含めCD-ROM版の販売も好調でした。

発表会の入場者は63名で、内訳は地質調査業関係44名、学協会5名、大学・博物館・市役所各1名、損保金融関係2名、個人9名でした。昨年までは、一般の個人と子供の入場者が多かったのと比べると、今回は地質分野の入場者が多く、また損保など災害関連の情報がほしくて入場した方や、地質に関する相談にいられた方もいて、普及とともに専門家への発表会を目指した目論見は成功したと言えるでしょう。入場者アンケートの回収率もよく、来年度の開催希望や、数値地質図の促進・在庫切れ地質図の増刷りなどの希望が寄せられました。

つくばでは、地質標本館ロビーで2001年11月6日~12月2日まで展示が行われました。

最後に

東京での開催はまずまず成功だったと言えますが、よりアプローチのよい会場探しと、展示・販売スペース、地質調査総合センターの紹介コーナーなどより見やすく、討論しやすい展示を工夫していきたいと思います。

SAKAI Akira (2002) : New geological map exhibition.

<受付: 2002年1月15日>